



副園長 奥村 綾

～いちにち先生へのご参加ありがとうございました～

いちにち先生を通して、保護者の皆さんに、日頃の子どもの遊びの様子をご覧いただきたい、そしてその姿から『育ち』『学び』を共有したいという思いで、今年度も実施しました。年中組約3割、年少・年長組約5割の方にご参加いただきました。

いちにち先生に参加された皆さんには、感想文を提出していただいています。数時間保育に入った中で、子どもの成長した姿に感動したことや、先生の声掛けに感心したこと、また、先生に対する労いの言葉や、いちにち先生に参加できた感謝の言葉等、感じ取った素直な気持ちを表現されていて、読ませていただいて大変嬉しい気持ちになりました。ありがとうございました。

その中に、【遊びの中の子どもの『育ち』『学び』について気づかれたエピソード】を書いていただいています。

参加されたすべての方が、客観的に子ども達の姿を見ることで感じたことや、子ども達の遊ぶ姿から、『育ち』『学び』に気づき、いろいろなエピソードを書いてくださいました。いちにち先生に参加したかったけど、残念ながら参加できなかった方々とも共有できればと思いますので、一部を、育ちの芽号外としてご紹介させていただきます。

【遊びの中の子どもの『育ち』『学び』について気づかれたエピソード】

- ◎トラブル?のような感じになった時「それいや」「でもやりたかった」と年中なりに何とかしようと相手と向き合っている姿がありました。大人のすぐの仲裁より、まず本人たちの気持ちを出し合う時間がとても必要で大切な年齢になってきているな—と思いました。
- ◎自分達で遊びを考え、ルールを考え、危ない事、みんなが納得するように等考えて話し合っている姿に「学び・育ち」を感じました。
- ◎自分自身の考えを持てるようになってきているから小さなケンカになることもありました。先生は両方の子の話を聞き、子ども達同士で解決できるように促してくれているのかなと感じました。お互いを許したり仲直りできる様子や、危ない事を注意したり、泣く子を気遣う様子等に育ちを感じました。
- ◎公園でブランコ遊びの際に代わって—とやってきた子に対し、乗っている子は、たくさん乗ったからいいよと嫌な顔一つせずすんなり譲ってあげていて、また、滑り台でも自分より小さい子が来ればその子達主体の動きになる、こういった思いやりの心をもって自然に動ける子がたくさんいてほっこりしました。
- ◎遊具の裏で土を掘ってそこにバケツに汲んだ水を流して遊んでいるお友達がいる、それを見たもうひとりの子が、工事現場みたいという、じゃあもっとここに道を作ろうと他の子が言って、とても楽しそうでした。子ども達の素直な発想は改めてすごいなあと思いました。
- ◎遊びの中で「悔しい」と泣き出してしまった子がおり、胸がぎゅっと締め付けられる思いでした。本人はひとしきり泣いた後落ち着き切り替えていました。小さいながら遊びの中で心が育っているんだ—と感じました。
- ◎年少さんの時よりも、それぞれがやりたいことに集中して取り組んでいる気がしました。でも、その中でも言葉なくとも自然と一緒にまごごとをしていたり、自分の気持ちを伝える時にはしっかり言葉で表現でき

ていたり、年少さんの時に感じた“バラつき”はなくなり“個”ではなく“集団”になっているのが成長を実感しました。

◎園庭であおむしを発見し、そのままにしてあげたい子と、虫かごに入れて飼いたい子でケンカが始まりました。どちらの気持ちもわかるなあと見守っていた所、ケンカを止める子もいれば、どちらかについてさらにケンカを激しくする子、先生に見せに行こうという意見になり、自分達で解決していました。見守る事って大切だなあと感じました。

◎遊具で遊んでいる時にボルダリングができる所で子ども達が、「先生おらんとダメやろ」「今日はママ先生やん」という話をしていて、ルールをちゃんと覚えていたことと話し合いをしていて成長を感じました。

◎おままごとをしている時「もう一つフライパンほしいな」「ここに水をいれたいな」等たくさんアイデアがでてきた子ども達。でもみんながお家(自分達で作ったビールケースのお家)から出てしまうとお家が取られてしまうかもと心配な子も。すると「じゃあ私がフライパンを取ってくるから〇〇くんはお水入れてきて」「じゃあ僕はお家守っとくな」と自然と役割分担をする姿に感心しました。

◎子ども達が楽しそうだと思う事ややりたいと思う事を見つけて実際に遊ぶにあたり、きっかけや遊びの共有はとても大事だと思います。泥遊びも五感を刺激する大事な遊びだと思いますが、普段の生活では子どもが遊ぼうとしても「汚れるからやめて」と言ったり、遊んでも親は見るだけだったりしてしまいます。今回先生方が進んで泥にお尻をつけたり、水浴びをされたり、それを見て最初は恐る恐る、次第に積極的に遊び始める子ども達を見て、単に遊びの場を用意するのではなく、そこに関わる大人の姿勢が学びや育ちに繋がるのだなと思いました。

◎外遊びで土いじりをしていました。年少さんという事もあってか言葉のやり取りは少なかったですが、同じ容器に砂を協力して入れたり、道具を次々と持って来て渡してくれたり容器をひっくり返す順番を考えるなど、協力する力、協調性、人間関係作りに繋がっているなと感じました。

◎ブロックの作品を取り合って泣いている子達に数人の子が集まって同じパーツがなくても似ている形が作れないかと提案し組み立て始めました。お友達を気遣う心、想像力、工夫する力が育まれていました。

◎意見を言ったり、遊びを楽しく進めていく方法をお友達と相談しながら工夫したり、試したりして遊べるように成長していてびっくりしました。

◎葉っぱをすりつぶすと緑色でお茶みたいなお水ができる。他に何をつぶすとおもしろいのか、発想がとてもおもしろい。どんな色になるのか!等の想像をさせる大事さに気づかされました。

◎カードゲームやルールがあるゲーム等、親が勝手に“まだ難しい”とか“うまくできない”と決めつけてる部分がたくさんあるなと改めて思いました。子どもは私が思っている以上に自分で考え、教え合い、時にはルールを作って、、、。大人よりよっぽど柔軟に物事を考えられているのかも思いました。

◎朝の活動で、電車とバスどちらを作るか話し合いをしていたのですが、私はどちらかを多数決で決めるのかなと思っていたら、一人の子が“どっちも作ったらいいと思う”という発言に驚かされました。どちらかを決めなくていいのかと。納得。常識や偏見にとらわれがちな大人に比べて、子ども達は柔軟な発想を持っているなと感心しました。

◎マーブリングでお水がすぐ汚れるので、その水を捨てて新しい水を入れる作業を何度もやってあげている子がいたり、折り紙の折り方を教えてあげたり、給食の準備でスプレーをする子、その後テーブルを拭く子と連携していたり、思いやりや優しさ協力する姿に成長を感じました。

◎クラスを2つのチームに分けた時や、給食の準備をしている時に、行動が少し遅れた子に対して、「こっちのチームだよ」とか「この線に並ぶよ」とか「あっちの席空いてるよ」といった行動を促す言葉が出ていて子ども主体で集団的な行動をしようとする姿に感心しました。ただ、まだ語調が強すぎるなと感心したので、お友達と過ごす中で時には傷つけたり、時には傷ついたりしながら、人との関わりについて学んでほしいと思いました。